

実践報告(概要)

「新しい修学旅行への夢」

発表者 さいたま市三室中学校

教諭 栗原 勝義

1 「東北(山形・宮城)への修学旅行の沿革」

本校の取り組みの変遷と経緯をお話します。この修学旅行が一番初めに校外学習担当の職員から会議の場に出されたのが昭和 58 年度です。関西方面の見学中心の学習から体験を中心とした修学旅行に切り替えていったらどうだろうという提案です。

そのときの提案の理由としては、

見学主体の修学旅行では心に残ることが少ないのではないかと。

京都・奈良はたくさんの学校が修学旅行の場所として使っていて、修学旅行生に混雑があり、見学というよりも、ただ流されるような形の修学旅行になってしまっているのではないかと。

人とのふれあいを大事にする修学旅行をつくりたいという観点から、なるべく少人数の生徒で実際の体験を教えていただくという形をとれる方法はないだろうか。

結論としては今までのものとは別の方向で考えるということで、調査期間を設けることになりました。調査期間は 3 年間でしたが、提案から 4 年目の昭和 62 年度に、今行なわれている東北への修学旅行の第 1 回目がスタートいたしました。このときには上山農協のお力添えで「お世話になる農家の方の紹介」等もやっていただいたのですが、3 年間実施した後、農協からこれ以上お手伝いは難しいというお話がございました。

学校側としましては、J A から手伝えないと言われた平成 4 年度は、準備が間に合わないという関係で、1 年だけ京都・奈良を取り入れましたが、その後、ずっとお世話になっておりますエコホテルにお願いいたしまして、ホテルの方に地元の農家の方との連絡調整をとっていただく形をとり、平成 5 年度から再び現在行なわれている東北の修学旅行が実施される運びとなりました。その後何年間か、いろいろと検討・工夫もされてきましたが、平成 10 年度に今の形の基本形ができてまいりました。

平成 11 年度には、教科の関係で、国語科の教員から実際に授業で行なっている松尾芭蕉の「奥の細道」に出てくる立石寺(山寺)見学を全員に体験させたいという声があがり、11 年度から

修学旅行3日目は山寺の見学コースになりました。

修学旅行を終了した後、ホテルで農家の方をお招きして、修学旅行の反省会を行なっています。それまでは教員が夏休み等に実踏して、農家の方と反省会を開いてきたのですが、12年度に学校の旅費の関係で職員を派遣できないという事態が発生しました。

2年間、どうしようもない事情からそれが行なわれなかったのですが、平成14年度にPTAから「お世話になっている農家の方に挨拶に行くのは子どもに『人から学ぶ』ということをやっている関係上、教員もそれを実践するのが筋ではないか」という声上がり、旅費をPTAとか修学旅行の積立金から出していただき、14年度から反省会が再開されるようになりました。

そして、今年、第16回目の修学旅行が無事終了いたしました。

2 修学旅行の取り組みの目的

本校の教育理念に「人に学び、物に学び、自然に学ぶ」という言葉があり、校舎の入口に開校当時から木彫りで大きく掲げられています。修学旅行の取り組みの目的としたのはこの理念です。この理念にたって次の4つの目標を立てています。

目標の1つ目は、「さまざまな体験を通して人としてよりよく生きるための力をつけさせる修学旅行」です。実際に物をつくる、自然とふれあう、友だちと力を合わせて仕事をする楽しさを味わうといった体験を通して、生徒の心を豊かにし、生きていくための力を向上させるということです。

目標の2つ目は、「人とのふれあいを重視した修学旅行」というものです。「ふれあい」というのは「出会い」という言葉に置き替えてもいいかと思えます。

修学旅行の1日目に、東北という土地で何十年も努力を続けてきた伝統工芸の職人さんに、実際に作業をするだけでなく、お話をしていただき、いろいろなことを学びとるという体験に取り組んでいます。8コース設けて、生徒を1班6人または7人の班単位で動かしておりますので、生徒たちが8コースの中から自分たちが体験したいものを選んでいくという形をとっております。

2日目は、厳しい自然の中でごまかしのきかない農業に取り組む。上山の農家の方々と、1日だけですが、農作業を体験させていただきます。朝9時ぐらいに大型バスで上山の農家の方々の家のすぐそばまで送っていき、1班ずつ生徒をおろしていきます。沿道で待ってくださっている農家の方が生徒たちをご自宅に引き連れて行きます。

その後、教員が自転車で農家の方にご挨拶に伺いますと、既に作業場に移動されていますの

で、教員も地図を見ながら作業場を探して、子どもたちを訪ね歩きます。12時ぐらいまで作業をさせていただき、生徒にお弁当を配付して、農家の方と一緒に昼食をとります。午後は3時まで作業をお願いしているのですが、この日一日の作業内容はすべてお願いする農家の方に一任しております。

うちの学校は7クラスありまして、1クラス6班編成で班をつくっております関係上、42軒の農家をお願いするのですが、その年その年の農家の方々のさまざまな事情がございまして、今年度は38軒の農家にご協力いただきました。その場合には学校サイドで、班の行動に大きな影響が出ないように、1つの班を2つに分けて、ほかの班と合体させて9人の班にするといった形で行なっております。

1日目と2日目で出会う人々、自分たちを迎え入れてくださる方々にいろんな話を聞いてきなさいと、子どもたちには準備段階で伝えるようにしております。4月から集会や準備段階、実行委員会も含めて、私から何度も話をする機会があるのですが、「難しいことを考える必要はない、とにかくこれまで三室中学校が培ってきた伝統と、山形・宮城で君たちを迎え入れてくれている人たちに出会うこと、そのことが一番大事な修学旅行である。1日目と2日目に君たちが話をして、物をつくらせていただく、作業をさせていただく、そういう中から何かをつかみとってくればそれでいいのである」ということを生徒たちにはずっと言い続けております。

目標の3つ目は、「少人数を主体とする修学旅行」です。先ほどから言っておりますように、6人または7人の小集団での班行動を中心に行なっておりますので、1年生のときから班行動を中心にさまざまな行事に取り組んできていますが、修学旅行は3年間の取り組みの集大成という形で位置づけております。

子どもたちは、日常生活の中で班を通して活動を行っているのですが、班活動のふだんの生活を通して日ごろから「あらゆる物、あらゆる事柄、かかわるあらゆる人々から、主体的に自分が何かを学ぼうとする意欲を持つ、すなおいに学ぼうとする謙虚さを身につける」といったことを日々要求し、努力をしているのです。そのことを三室中学校の教育理念である「人に学び、物に学び、自然に学ぶ」という言葉であらわしているということです。ですので、修学旅行にかかわらず、生徒たちは1年次からのすべての行事に対して、「人に学び、物に学び、自然に学ぶ」という言葉を考えながら取り組んでいます。

目標の4つ目は、「三年間を見通した取り組み」ということです。1年生から3年生までの大きな行事を載せておきました。3年生の修学旅行に向けて1年次からすべて同じ基本方針で、順序立てて進めています。

近年の学校5日制に伴う取り組み時間の確保の問題がありますので、実際には、私が赴任した9年前にはこれ以上にたくさんの行事がありました。それらの行事もすべて3年の修学旅行に向けてという筋道を立てて行っていたのですが、幾つかの行事は削減し、中心となる行事だけを残して、今はこの形で取り組んでいる次第であります。

3 今年度の取り組み

それでは、次に今年度の取り組みについてお話をさせていただきたいと思います。

目的としては、「人に学び、物に学び、自然に学ぶ」をスローガンに挙げ、生徒の中に育てたいものとして掲げてあるものを学年の目標といたしました。これらを通して人として生きる力をつけさせるということを大きな目標として考えております。

ぜひ体験してほしいということですが、体験学習の中で、物をつくる体験を主としているわけではありませんし、農作業として汗をかいて作業をすることを目的とした修学旅行ではないというふうに私たちは考えています。物づくりや農作業をする中で、そこに携わっている方々と話をして、いろいろなことを聞いてくる。その方々にふれあって、自分が知らなかった世界を新しく広げる。そういったものをこの修学旅行の一番の目的としているのです。

職人の方々が持っている物への愛情、それから、農家の方々の作物への愛情、また、仕事として取り組む厳しさ。それでも立ち向かう農家の方々の心や気持ちを子どもが話をする中で体験してくる、耳にする、目で感じとってくるというのが、一番の目的と考えております。子どもたちには、「山形・宮城にはすばらしい人たちが待っている。君たちを待っている人たちがどのような気持ちで待っているかをつかんできてほしい」ということをメインに話をしております。

組織については、すべての行事は実行委員会形式で行なっておりますので、修学旅行もこの形で取り組みました。

次に、体験学習内容ですが、伝統工芸の体験学習は3コースに分けてあり、それぞれの地域に行く関係で新幹線も別々になります。米沢で降りるグループ、白石蔵王で降りるグループ、仙台駅で降りるグループに分かれており、なおかつ、最初に説明しましたように各コースを班で選んで取り組んでおります。

初日にさいたま市の大宮駅に集まる生徒たちはクラスではなく班ごとです。新幹線もクラスに関係なく何組何班という形で乗車しますので、1日目はクラスに関係なく、そのコースごとに集まった生徒と一緒に体験するという形をとっております。各コース2~3時間の体験学習で

す。

2日目は、修学旅行のメインといっても差し支えないと思いますが、上山の農家1軒に1班ずつ担当していただいて体験学習をします。9時に始めて3時ごろ迎えにいきます。また、教員が自転車で分担した場所を回っております。

続いて、修学旅行の事前指導と事後指導ということですが、取り組みの時間が週5日制の関係で昔とは変わってまいりましたので、「学習のしおり」をつくりました。山形・宮城の文化などについて子どもたちが事前に調べました。実際にこれをつくったのは3年生になってからですが、調べ学習を行なったのは2年の社会科の時間とか、選択社会の時間等を活用しました。国語科の時間としては、『奥の細道』の立石寺を事前に学習しております。

この修学旅行は、農家の方には無償で、ボランティアで受け入れていただいておりますので、生徒たちには「一生懸命作業をすること、それしか応えることはないよ。」と言って送り出しているのですが、それとは別に、毎年、子どもたちが美術の時間に美術品をつくって、農家の方に「自分たちがつくったものです。」と書いて、使用できるものをおみやげとして持っていております。

事後指導といたしましては、総合学習の時間を使って、修学旅行新聞を1人1ページ、3日間の学習内容を取りまとめてつくって、最後に冊子としてまとめました。英字作文は、英語の時間を使いまして、個人ではなくて、各班で修学旅行の思い出や感想を英語で書いて新聞をつくるという作業にも取り組んでおります。

こういった形で修学旅行報告記録集というものを、取り組みの中身とか実際にやった事柄などを全部、資料として綴じ込みまして、三室中学校に新しく赴任してきた先生に毎年配っております。修学旅行の取り組みの流れ等も説明して、その内容を理解していただき、趣旨をつないでいってほしいということで行なっております。

最後に、まとめになります。修学旅行の総括は、「生徒がどう動いたかではなく、どう変わったかである」という言葉を先輩の先生からいただきました。自分としてもそのことを目標として取り組んできたつもりです。

先ほど言いましたように、農家の方には無償ボランティアで、心だけで受け入れていただいているという現状、それから、農家の後継者不足の問題等々、検討事項はこれからもあるのですが、問題点は解決しながら、一年でも長くこの取り組みを続けていきたいというのが本校教員の大部分の声になっております。

今年、私は農家との反省会に行つてまいりましたが、「三室中学校修学旅行の取り組みの趣旨

をちゃんと理解しているから、生徒におみやげを渡すつもりもない。サクランボを食べさせるつもりもない。一日、朝からお昼すぎまで石拾いをしたり、摘果作業をしたり、汗をかかせるよ。それが、先生たちが言う体験じゃないの？」という声をいただきました。そのとおりだと思っています。「子どもたちが一日作業していっぱい汗をかいた後の顔が輝いているんだよ、先生。」と言われまして、すごくありがたいなと思いました。

それから、「十数年、この旅行の受け入れを行なっているのだけれども、自分のうちも息子が農業を継がないで会社員になっているので、修学旅行の方ももう協力できないかもしれないと思っていたが、ことしの生徒の笑顔と作業を一生懸命やる姿と、修学旅行が終わった後、保護者の方からも手づくりのお礼状等をいただくと、お金じゃなくて来年も三室中を受けるよ。」と行ってくださった農家の方もいました。本当にありがたいなと思うのです。そういったことを子どもたちにどうやってこれから伝えていけばいいかというのが今後の課題で、私どもも頑張らなければいけないなという気持ちになります。

生徒の方は、中三にもなると母親となかなか話をしない男の子が出てくるのですが、修学旅行から帰ってきて大宮駅に母親が車で迎えに来ていて、車に乗り込むやいなや、家に着くまで20分ほどずうっと、母親に一方的に「すごい人たちがいた。先生たちが言ったとおりの人たちだ。」と一気にまくしたてたそうです。母親は「あんなに息子が話をしてくれたのは何年ぶりでしょうかね。」とっていました。

また、ビールのホップを栽培されている農家の方にお世話になった野球部のエースは、家に帰ってお父さんに「お父さん、これから飲むビールは　　というメーカーにしなきゃ駄目だよ。僕がお世話になった何々さんがつくっているホップでつくったビールなんだから。これからは何とか以外のビールは飲まないでくれ。」と。言われたお父さんは次の日からビールの銘柄を変えたという話もありました。

いろんな思いを子どもたちが持って帰ってこられた修学旅行をこれからもぜひ続けていきたいと思っています。

さいたま市立三室中学校 336-0192	さいたま市緑区馬場 1 - 3 8 - 2
	電話：0 4 8 - 8 7 4 - 2 3 3 1